

都市計画道路3・4・25号東原村木沢線（木の实町工区） 街路事業概要

<事業箇所>

山形市木の实町（きのみちょう）
 地内 ほか
 [県道名：主要地方道山形朝日線
 （やまがたあさひせん）]

<事業概要>

本路線は、山形市都市計画マスタープランにおいて、山形駅周辺の連携を強化する「駅環状道路」に位置づけられるとともに、中心市街地と東北中央道山形中央ICとのアクセス機能の向上を図る重要な路線です。

また、山形大学小白川キャンパスと山形駅を結ぶルートの一部となっており、多くの学生や市民が市街地での移動に利用しています。

現在の木の实町工区は、東原町から西回りバイパス間で唯一残った未改良区間ですが、今後の拡幅・整備により、交通渋滞の緩和、中心市街地の回遊性・利便性の向上、無電柱化による都市景観と防災機能の向上を目的に事業を進めております。また、冬でも安心快適に歩ける無散水融雪歩道を計画しています。

なお、街路空間の検討にあたっては、地域の関係者を中心とした「街づくり委員会」の意見を参考にしています。

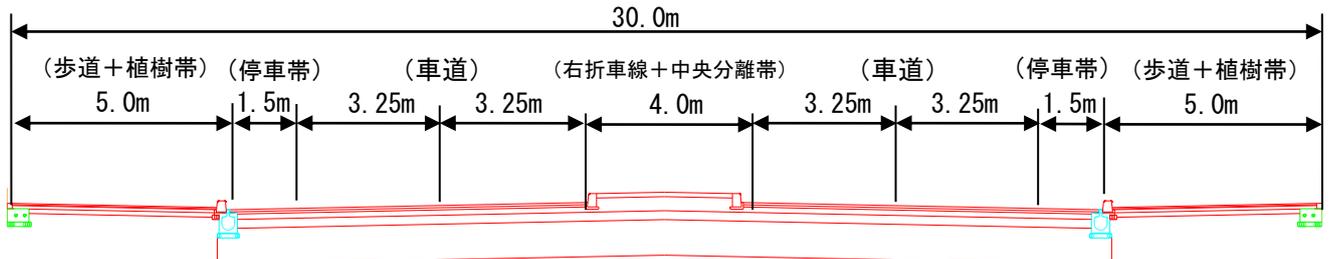
<位置図>



<事業計画>

- ・事業延長：278.1m
- ・計画幅員：30.0m（車道両側に幅5mの歩道を設置）
- ・車線数：4車線（片側2車線）
- ・事業認可：平成30年度～
- ・総事業費：53億円

<標準横断面図>



<事業箇所写真>

■事業予定地 起点(東)側より終点(西)側を望む



(令和8年3月撮影)

- ・写真「中央」の道路が現在の道路（片側1車線対面通行）です。
- ・幅員20mの現道を、両側に拡幅することで、幅員30m（片側2車線対面交通）の新たな道路に生まれ変わります。
- ・道路沿いにある電柱・電線の機能は地中に埋設（無電柱化）され、都市景観と防災機能が向上します。
- ・無散水融雪機能（歩道下に地下水を通すことで雪を消す機能）を備えた歩道となります。

現在は、事業用地の買収を進めています。